

福山大学 工学部 建築学科 2020年度 自己点検・評価書

基準1. 理念・目的

領域： 使命・目的、教育目的

2020年度

工学部 建築学科

中長期計画	・教育目標は従来から以下の通りであり、今後も「地域に貢献する人材の育成」を学科の教育目標とする。 「大都市と地方の格差が拡大しつつあるなかで、地方都市の活性化と再生を行うため、地域の街づくり、地域の安全な生活環境、品質が保障された建築物の建設等の実現を担う専門技術者を、大学教育によって地域に供給す」ることを当学科の社会的役割と位置付ける。 ・今後も学科の教育目標に沿って、カリキュラム・マップ、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーを定期的に検証していく。 教育目標：建築学科においては、建築の専門家としての良識と倫理観及び、建築とそれに関連する専門知識と技能を身に付け、地域社会のニーズと改善に対して強い意思を持って対応し、自らの専門家としての能力と意識を高めることができる人材を育成する。 1. 建築に関する専門知識と専門技術を身に付け、地域社会に貢献できる人材を育成する。 2. 地球環境と調和した快適で安全安心な都市生活環境づくりを目指す人材を育成する。 3. 建築に関する総合的理解をもとに、建築の専門家を目指す人材を育成する。
	2020年度

中点検項目	1-1. 大学、学部、学科、研究センター及び委員会等は、それぞれの使命・目的及び教育目的を設定していますか。
点検項目	① その意味・内容は具体的かつ明確ですか。
現状説明	使命・目的及び教育目的は具体的でありかつ明快である。
年度目標	現状を維持
年度報告	学科の教育目的、アドミッショն・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー、アセスメント・ポリシーを定め、HPに掲載している。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①建築学科ホームページ 4つのポリシー https://www.fukuyama-u.ac.jp/eng/architecture/architecture-policy/
点検項目	② 個性・特色を明示していますか。
現状説明	全国の建築系学科のカリキュラムは、建築士受験資格要件に合致することが求められ、他大学との大きな差は無いが、当学科では1年次から専門教育を取り入れ、1年次の教養ゼミ、3年次のゼミナール演習においてPBL教育に対応したアクティブ・ラーニングを行っており、当学科の教育の特徴の一つである。
年度目標	現状を維持
年度報告	建築学科のPBL科目としている1年次の教養ゼミ、3年次のゼミナール演習を実施し、成果も公開している。本年度は備後地域の活性化に関するテーマを設定し行った。
達成度	
改善課題	
根拠資料	①教養ゼミ発表会資料 ②ゼミナール演習発表会資料
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 社会の要請や背景の変化について検討していますか。
現状説明	社会の要請や変化に対応した各教員の専門分野における研究活動を基にした教育を行うことや、建築士試験、インテリア設計士試験等に対応するカリキュラム構成を定期的に見直し検討を行っている。
年度目標	デジタル技術の進化のもとでの国策であるBIMなどの普及による建築産業の変化に対応し、意匠設計系のCADのみならず、生産系のCADの導入などにより、その変化への対応を推進す
年度報告	建築士制度改定の初年度に、二級建築士合格者（学部生2名）及び一級建築士合格者（大学院生1名）を排出することができた。これは1つの成果として建築士試験を意識した専門教育を継続する。また、2021年度予算にてBIM教育用ソフトを導入することが可能となった。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①二級建築士合格 https://www.fukuyama-u.ac.jp/blog/43190/ ②一級建築士合格 https://www.fukuyama-u.ac.jp/blog/44472/ ③2021年度建築学科予算書
次年度の課題と改善の方策	

中点検項目		1-2. 使命・目的及び教育目的の反映
点検項目	① 使命・目的及び教育目的に対し、教職員の理解と支持は得られていますか。	
現状説明	使命・目的及び教育目的は、毎年学科会議時に自己点検計画作時に学科会議で審議し、理解と支持を得ている。	
年度目標	現状を維持	
年度報告	現状を維持した。使命・目的及び教育目的は、毎年学科会議時に自己点検計画作時に各教員間で審議し、理解と支持を得た。	
達成度	S	
改善課題		
根拠資料	①学科会議議事録	
次年度の課題と改善の方策		
点検項目		② 学内外へ公表し、周知していますか。
現状説明	学科の教育理念や目標は学部学科ホームページ、リーフレットに掲載し、オープンキャンパス、入試説明会等において説明し、新入生にはオリエンテーションにおいて説明して周知、公表を行っている。	
年度目標	現状を維持	
年度報告	学科の教育目的や4つのポリシーは、学部学科ホームページ、入試案内等への掲載を行っている。学生に対しては、新入生ガイダンス等で説明し理解を促している。社会に対しては、オープンキャンパスや入試説明会などにおいて説明している。	
達成度	S	
改善課題		
根拠資料	①建築学科HP 3つのポリシー https://www.fukuyama-u.ac.jp/eng/architecture/architecture-policy/ ②建築学科紹介パワーポイント	
次年度の課題と改善の方策		
点検項目		③ 中長期的計画に反映していますか。
現状説明	定期的に見直した内容は中長期計画に反映している。	
年度目標	現状を維持	
年度報告	現状を維持した。	
達成度	S	
改善課題		
根拠資料	①2020年度建築学科運営方針	
次年度の課題と改善の方策		
点検項目		④ 3つのポリシーに反映していますか。
現状説明	定期的に見直した内容は3ポリシーに反映している。	
年度目標	現状を維持	
年度報告	今年度は3ポリシーに反映するような変更はない。	
達成度	S	
改善課題		
根拠資料	①建築学科HP 3つのポリシー https://www.fukuyama-u.ac.jp/eng/architecture/architecture-policy/ ②建築学科紹介パワーポイント	
次年度の課題と改善の方策		
点検項目		⑤ 教育研究組織の構成との整合性は取れていますか。
現状説明	現在の建築学科は11名の教員から成る。その内訳は、設計・計画系5名、構造・構法系3名、環境設備系1名、地盤環境系1名である。新カリキュラム運営では整合性が取れている。しかし、教員1人当たりの学生比率(ST比)は27名を超えており、近隣他大学のST比(岡山理科大工学部建築学科24.77名)と比較すると大きい。	
年度目標	2020年度内に建築計画・設計系の新任教員(准教授または講師)を公募し採用決定を目指す。2022年度以降の人事計画を教育カリキュラムを検討し、方針を決定する。	
年度報告	計画通り、建築計画系の新任教員(講師)を採用することができた。また、2022年度から2024年度に向けた人事計画案が策定できた。	
達成度	A	
改善課題		
根拠資料	①工学部人事教授会議事録 ②評議会資料	
次年度の課題と改善の方策	2024年度までの段階的な教員人事計画及び2024年度以降の教員人事計画を考慮したカリキュラムを検討する。	

基準2. 学生

領域: 学生の受入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応

2020年度

工学部 建築学科

中長期計画	1. 学部全体の対応(学科提出5年後充足率100%行動計画による) <ul style="list-style-type: none"> ①各学科の特性を考慮し、学部全体共通の分かりやすいキーワードによるPR 「地域に貢献する工学部」というイメージ戦略として「社会安全」は地域社会に対するPR効果として中長期的には有効であるが、短期的な学生募集への効果は必ずしも高くない。(「工学部は地域にとって不可欠である」のイメージの定着化) ②教育成果のPRとして工学部主催の卒業研究発表会の実施(数年前に実施) 発表者は上位の学生とし、一般市民、高校の先生、高校生などを招待する。 ③工学部独自のPR用パンフレットの各学科共通フォーマットの作成 2. 学科による教育成果を得るための取組基本方針(A:成績上位者、B:成績中間の学生、C:成績下位学生) <p>AとBの成績上位者に対しては、福山大学でも第一志望の大学レベルの教育が受けられ、学修成果が得られる教育を提供する。30%を占めるCには学修意欲、基礎学力何れも極めて低い学生が多く、現実的にCに対して専門教育を行うのは難しい。現在、Cに対する教員の負担が増加しており、AとBの一部の成績上位学生に対する教育強化を如何に行うか、Cによる学修意欲と学修レベルの低下による学修環境の水準維持が課題であり、全学的な取組みが必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①AとBの成績上位者の学生をさらに伸ばす教育を行う。 ゼミ指導の強化、ゼミを週2回以上実施、教育成果をあげる(卒業設計のレベルアップと作品レベルの向上、卒業研究の強化指導) ②中間レベルの可能性のある学生の中から、1人でも上位レベルまで引き上げる。 ③短期目標型教育等の教育プログラムを行い、教育成果をあげる。 ④下記の成果のPRを行う。 卒業設計展、卒業設計発表会、建築家による卒業設計批評会、びんご建築女子PJ等の開催。ホームページによるPR(設計課題優秀作品、卒業研究・卒業設計優秀作品、見学会、授業の紹介、資格取得合格体験記等)
	2020年度

中点検項目	2-1. 学生の受入れ
点検項目	① 教育目的を踏まえたアドミッション・ポリシーの策定と学内外への周知を行っていますか。
現状説明	教育目的を踏まえたアドミッション・ポリシーの策定については、2016年度に検討を行い、適切に設定した。今後も社会や学生の状況を見ながら、必要があれば検討を行う。学内外への周知は、ホームページにて行っている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学科会議議事録(学生の動向) ②福山大学ホームページ、工学部ホームページ
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② アドミッション・ポリシーに沿った学生を受け入れていることを検証し、学生受入れの改善に生かしていますか。
現状説明	アドミッション・ポリシーに沿った学生を受け入れていることは、学生の学修状況を検証している。学生受入れの改善については、学科で検証を重ねていく必要がある。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	アドミッション・ポリシーに沿った学生受入れの実態と改善については検証を継続する。
根拠資料	①学科会議議事録(学生の動向) ②授業欠席調査
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 入学生受入れ状況を昨年度及び今年度について検証し、その増減の原因を分析していますか。
現状説明	入学者受入れ状況について、昨年度及び今年度について検証し、その原因を分析している。
年度目標	現状を維持

年度報告	2017年度以降、建築学科入学生は定員以上を確保している。2018年度は、81名(充足率115%)、2019年度は76名(充足率109%)、2020年度は76名(充足率108%)である。また、毎年時入学生アンケートを実施し、入学者受け入れ状況の結果を分析している。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①学科会議資料
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 入学定員に沿った適切な学生受入数を維持できていますか。できていない場合、どのような対策を実施していますか。
現状説明	入学者受け入れ状況について、昨年度及び今年度について検証し、その原因を分析している。
年度目標	現状を維持
年度報告	2017年度以降、建築学科入学生は定員以上を確保している。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①学科会議資料(学生名簿一覧、学生の動向)
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

工学部 建築学科

中点検項目	2-2. 学修支援
点検項目	① 学修体制の整備のため、どのような教員と職員等の間でどのような協働をしていますか。また、それを学内外に公表し周知していますか。
現状説明	学修体制整備のために、学科教員間においてはきめ細かな情報を共有し、必要に応じて、教務課、学生課、就職課等の職員等と情報を共有し、意見交換を行うなどの協働体制を構築している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①学科会議資料(学生の動向等)
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 学修支援の充実のために、TA(Teaching Assistant)等を有効に活用していますか。
現状説明	学修支援の充実のために、演習科目についてTA等を有効に活用している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①「2020年度予算要求書(その他の要求工学部共通)」
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

工学部 建築学科

中点検項目	2-3. キャリア支援
点検項目	① 教育課程内外を通じて社会的・職業的自立に関するキャリア形成支援体制を整備していますか。
現状説明	学科内には、キャリア形成支援に関する教育課程、組織体制はないが、カリキュラムでは、「キャリア科目」を必修としている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①就活状況一覧
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 卒業生の進路に関する過去3年間にわたる資料を収集し、検証していますか。
現状説明	卒業生の進路に関する過去3年間に亘る資料を収集し、進路先(企業)に定期的に連絡し、検証を行っている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S

改善課題	
根拠資料	①各年度就活状況一覧
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 資格取得やインターンシップを支援する体制を整備していますか。
現状説明	資格関連授業の実施や資格取得のスケジュールの学生への周知等、資格取得やインターンシップを支援する体制を整備している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。学生への周知はCerezoを活用するなどICTを活かした。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①資格関連授業：「授業計画」、シラバス ②インターンシップ：就活状況一覧
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 就職指導を適切に行い、就職の質及び内定率の向上に取組んでいますか。
現状説明	就職指導を適切に行い、就職の質及び内定率の向上に取り組んでいる。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①就活状況一覧 ②学生との面談記録
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

工学部 建築学科

中点検項目	2-4. 学生サービス
点検項目	① 学生生活の継続のための経済的支援は実施されていますか。
現状説明	日本学生支援機構及び福山大学特別奨学生・一般奨学生を使って、支援する等、学生の状況等は、各学年担任、ゼミ担任が担当し必要な助言を行っている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。 各学年(クラス)担任、ゼミ指導教員により、適切に面談を実施し助言等を行うとともに、必要があれば保証人との情報共有がなされている。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①学科会議議事録(学生の動向) ②各学年担任による学生との面談記録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 種々のハラスメントの発生防止に取組んでいますか。
現状説明	種々のハラスメントの発生防止は、学内FD研修などに参加することで啓蒙している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。 学科内では学生の動向を含め情報共有を徹底している。学科内においてハラスメントの事案は発生していない。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①大学ホームページ
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 課外活動(サークル活動、留学等の国際交流、社会貢献活動を含む)の活性化のために、どのような取組みを行っていますか。
現状説明	課外活動のうち、留学等の国際交流は積極的に参加するよう啓蒙している。また、社会貢献活動は、社会連携センターの活動を通して教育研究成果を還元するため、参加可能なイベントには参加するよう努めている。サークル活動については、特に取組みは行っていない。
年度目標	現状を維持
年度報告	本年度は、社会情勢により課外活動の制限があった。
達成度	B
改善課題	
根拠資料	①学科会議議事録(学生の動向)

次年度の課題と改善の方策 2020年度	社会情勢を見ながら、柔軟に対応する。各活動は積極的に参加するよう啓蒙していく。
	工学部 建築学科
中点検項目	2-5. 学修環境の整備
点検項目	① 校地、校舎等の学修環境の整備と適切な運営・管理をどのように実施していますか。
現状説明	建築学科の学生が使用するゼミ室（4年次生）及び製図室（1年次から3年次生）については、学科全体で運営管理を行なっている。
年度目標	学修環境整備計画を検討審議し、必要な教具・校具を基準8に示すとともに、来年度予算要求書に盛り込む。
年度報告	年度目標を達成することができた。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2020年度教務のてびき ②2021年度予算要求書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② ICT教室、実習・実験施設、図書館等を活用していますか。
現状説明	ICT教室として、昨年度までは、工学部棟内「PC室3」を、授業と課題で十分に活用してきた。次年度からは、リニューアルされた「新PC室1」ならびに「BYOD室」を活用予定である。 実験施設として、「30号館」と「8号館」を、建築構造に関する実験・実習で十分に活用している（ただし、8号館は取り壊し予定）。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。 対面授業は感染予防を徹底して、ICT教室では、CAD演習、専門英語、その他ゼミ演習で、実習施設では製図、設計関連授業で、実験施設では、材料実験演習、卒業研究で、図書館も遠隔も含め卒業研究の文献検索などで活用するなど、施設は授業や卒業研究などで十分
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2020年度教務のてびき
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 施設・整備のバリアフリー化やアメニティースペースの確保など、学生の利便性を高めるために、どのように取組んでいますか。
現状説明	<2号館：デザイン系エリア> 以下2点を課題として挙げている。 ◇収納スペース不足：校舎全体の倉庫等収納スペースが著しく不足し、過去の模型作品や模型材料等が収納できず、製図室・学生室・共用廊下休憩スペース等を侵食する問題が生じている。また、近年、入学者数が定員70名を超えており、製図室における製図板収納スペースが不足している。収納スペース整備を早急に行う必要がある。なお、教員2名の30号館への移動に伴い、そのスペースを「非常勤講師室」と「多目的室」（ミーティングや学生の面接練習等に活用）として確保できた。 ◇什器等の整備・更新が必要：学生室の什器類（机・椅子・テーブル等）が老朽化している。学生が集中できる環境整備のため、室のレイアウトやスクリーン設置等の検討が必要。 <30号館：エンジニアリング系エリア> ◇什器等の更新：30号館各室の机・椅子・テーブル等も老朽化してきており、古いものは順次更新していく必要がある。
年度目標	<2号館：デザイン系エリア> ◇倉庫等の「収納スペース」の要求を行う。 ◇学生室の「什器等」の要求を行う。 <30号館：エンジニアリング系エリア> ◇什器等の更新の要求を行う。
年度報告	年度目標としていた課題は解消されないままであった。
達成度	C
改善課題	特に収納スペースの確保が切実な課題である。
根拠資料	①2020年度建築学科予算要求書 ②2020年度建築学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	再度、収納スペース等の要求を行なう。
点検項目	④ 授業を行う学生数等を考慮した適切な施設・設備上の管理をしていますか。

現状説明	<p>以下2点を課題として挙げている。</p> <p>◇卒業研究用PC及びソフトの整備：4年次生72名に対するPC機器は現状41台であり、4年次生の卒業研究・卒業設計用のPC機器及びソフトが不足している。工学部棟でリニューアルされた新PC室1のPC（85台）は、主に3年次生以下が使用するので、4年次生用PCは各研究室に配置する必要がある。特に、BYOD用PCでは対応できないCAD・CG用PCを、卒業設計選択学生へ充てることが必須である。卒業設計では、CAD・CG用PCを1人1台の占有使用となる。PC修理対応期間が生産打ち切り後5年であるので、6年をサイクルとした継続的更新が必要である。</p> <p>◇設計教育用「製図板（平行定規）」のメンテナンス費用の確保：建築学科では、1～3年次生の学生1人に、製図スペース1席、製図板1枚を供与することを固有の特色としている。使用している製図板のうち、老朽化による故障（消耗的故障）のため毎年約10台程度買い替えが必要となっている。なお、学生の故意（不注意）による故障（カッターキズ等）については、学生による弁償としている（使用前に誓約書を書かせている）。2020年度の1～3年次生の学生数は229名。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8号館が解体撤去されることに伴い、建築専門科目「建築材料実験」は2021年度から30号館で実施することになる。実験で使用する1,000 kN万能試験機は2020年度に整備されるが、実験で使用するコンクリート材料の「砂利・砂置き場」の整備計画がない。 ・意匠設計系のCAD・CGはツールの整備は進んでいるが、構造系・施工管理系のCADツールの整備が十分と言えず、将来施工管理系に進む学生に対して配慮する必要がある。
年度目標	<p>◇工学部棟PCリニューアルの新旧PC入れ替えに伴い、旧PCが学内で再利用される。その再利用PCを、卒業研究（設計・論文）用へ充てることを昨年度要求したが、引き続き要求する。また、卒業研究（設計・論文）用PCの更新費用を、パソコンの中長期計画を作成し学科から予算申請する。</p> <p>◇設計教育用「製図板（平行定規）」のメンテナンス費用を、学科から予算申請する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2021年度の「建築材料実験」までに間に合うように「砂利・砂置き場」を30号館周囲に計画し予算化する。 ・2021年度の構造系・施工管理系の授業に間に合うよう、BIMに対応した構造系・施工管理系CADツール導入を計画し予算化する。
年度報告	<p>◇工学部棟のPC室がリニューアルし、85名収容可能のPC室1と2が使用できるようになり、問題を改善した。</p> <p>◇卒業研究（設計・論文）用PCおよびソフトの中長期計画は作成できなかった。</p>
達成度	B
改善課題	<p>◇卒業設計用「模型製作スペース」の確保</p> <p>◇卒業設計用「PC・ソフト」中期計画作成</p> <p>◇設計教育用「製図板」メンテナンスに関する仕組み</p>
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	<p>次の3点について引き続き検討する。</p> <p>卒業設計用「模型製作スペース」の確保、卒業設計用「PC・ソフト」中期計画</p> <p>◇設計教育用「製図板」メンテナンス仕組み</p>
点検項目	⑤ 施設・設備の管理において、防災・防火の観点から整備点検を行っていますか。
現状説明	<p>建築物の防災防火に対する授業を、「建築法規」という授業を行なっている。しかし、工学部棟（2・3・4号館）では安全管理のため屋外階段が施錠されており、日常的利用としての2方向避難（建築基準法）の観点から好ましくない。屋外階段からの落下防止以上に、2方向避難ができない避難設備等による建築基準法違反は重要な問題である。建築基準法を遵守する立場の建築学科使用の建物において、防災に対する取り組みができない。</p>
年度目標	<p>建築学科ゾーンの新棟2階西側の屋外階段を使用できないようにしているが、改善を求める。建築基準法施行令第120条の二方向避難違反となり、安全性に問題がある。</p>
年度報告	<p>屋外階段の管理について大学側と協議はできなかった。なお、上記の問題を実証する研究が実施済みである。</p>
達成度	B
改善課題	<p>建築学科ゾーンの新棟2階西側の屋外階段を使用できないようにしているが、改善を求める。建築基準法施行令第120条の二方向避難違反となり、安全性に問題がある。</p>
根拠資料	<p>①2016年度工学教育研究講演会講演論文集, pp. 380-381 (地震火災を対象とした減災教材の開発研究—CFDの活用—)</p> <p>②建築基準法</p>
次年度の課題と改善の方策	<p>建築学科ゾーンの新棟2階西側の屋外階段を使用できないようにしているが、建築基準法施行令第120条の二方向避難違反となり、安全性に問題があるため、改善を求める。（国の法律を遵守するという認識の欠如があつてはならない）。避難経路は、屋外階段扉が施錠されているため1つしかない。</p>
点検項目	⑥ 施設内に保管している劇物・危険物の管理において、安全管理の観点から管理システムを整備していますか。
現状説明	<p>危険物としては、30号館（安全安心防災教育研究センター）の構造実験装置等があるが、「安全衛生マニュアル」が作成されており、年度はじめに学生に安全マニュアルを配布し、安全教育を実施している。</p>
年度目標	現状を維持

年度報告	解体予定の8号館・21号館から管理が必要な薬品が発見された。毒物・劇薬については適宜、適切に処分しなければならない。
達成度	C
改善課題	普段使用しない部屋あるいは棚等に管理者不明の物品がないか、調査の必要がある。
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	大学の新しい安全管理マニュアルに準拠した対応をする。
点検項目	⑦ 学生及び教職員の安全確保のために、各部署に適切な安全管理教育の実施、災害時避難マニュアルの作成及び防災訓練等を実施していますか。
現状説明	◇学科の「安全衛生マニュアル」が作成済みである。 ◇工学部棟（2, 3, 4号館）については安全教育を行なっていない。建築学科ゾーンの新棟2階西側の屋外階段を使用できないようにしているが、建築基準法施行令第120条の二方向避難違反となり、安全性に問題があるため、改善を求めたい。 ◇構造実験場（30号館）では、年度はじめに学生に安全マニュアルを配布し、安全教育を実施している。
年度目標	◇建築学科ゾーン（2・3・4号館）の新棟2階西側の屋外階段を使用できないようにしているが、建築基準法施行令第120条の二方向避難違反となり、安全性に問題があるため、改善を求めたい。 ◇構造実験場（30号館）では現状を維持する。
年度報告	◇工学部棟（2, 3, 4号館）：大学側と協議できなかった。 ◇構造実験場（30号館）：現状を維持した。
達成度	B
改善課題	屋外階段の管理について、改善課題が残されたままである。
根拠資料	①2016年度工学教育研究講演会講演論文集, pp. 380-381 (地震火災を対象とした減災教材の開発研究—CFDの活用—) ②建築基準法
次年度の課題と改善の方策	屋外階段の管理について、大学側との協議を検討する。

2020年度

工学部 建築学科

中点検項目	2-6. 学生の意見・要望への対応
点検項目	① 学修支援に関する学生の意見・要望を把握する体制や、その分析と検討結果を活用する体制を整備していますか。
現状説明	◇半期ごとにCerezoを活用した振り返り（自己点検）と目標設定のためのアンケートを実施している。 ◇アンケート分析結果は、学科会議で共有し、学科運営（学生支援や教育内容等）の検討に活用している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①Cerezo（学年別コースの振り返りアンケート） ②学生面談記録 ③2020年度建築学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 心身に関する健康相談、経済的支援をはじめとする学生生活に関する学生の意見・要望を把握する体制や、その分析と検討結果を活用する体制を整備していますか。
現状説明	◇上記のCerezoアンケートならびに各学年担任による学生面談によって把握する体制を構築している。 ◇アンケート結果と面談結果は、学科会議で共有し、学科運営（学生支援や教育内容等）の検討に活用する体制を構築している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。 クラス担任または学科長及び教務担当を加えた体制により定期的な面談や個別の面談を通じ、学生生活に関する意見要望及び状況を把握し、学会会議及び個別の打ち合わせを通じ共有、フィードバックする体制を整備している。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①Cerezo（学年別コースの振り返りアンケート） ②学生面談記録 ③2020年度建築学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	③ 学修環境に関する学生の意見・要望を把握する体制や、その分析と検討結果を活用する体制が整備されていますか。
現状説明	◇上記のCerezoアンケートならびに各学年担任による学生面談によって把握する体制を構築している。 ◇アンケート結果と面談結果は、学科会議で共有し、学科運営（学生支援や教育内容等）の検討に活用する体制を構築している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。 クラス担任または学科長を加えた体制により定期的な面談や個別の面談を通じ、学修環境に関する意見要望及び状況を把握し、学会会議及び個別の打ち合わせを通じ共有、フィードバックする体制を整備している。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①Cerezo（学年別コースの振り返りアンケート） ②学生面談記録 ③2020年度建築学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

工学部 建築学科

基準3. 教育課程

領域： 卒業認定、教育課程、学修成果

2020年度

工学部 建築学科

中長期計画	教育課程においては、次の基本方針を掲げ、PDCAサイクルを組みながら継続して実施する。
	①各学年、学期単位毎の目標を設定し段階的学習を行う短期目標型教育 「学生自身が、自分の学修成果、成長の証を実感できる」 ②建築の総合的学習のためのマネイジメント能力育成教育システム 「建築の全体像を理解しながらスムーズに各専門科目が学べる」 ③教育成果を得るための相互関連型教育 「幾つかの授業科目で同じ題材を使うので分かりやすい」 ④地域社会に貢献するPBL教育等を基本とした教育システム 「自分が学習したり提案したものが、地域社会の役に立つ」 ⑤人と「もの」との関係を基本にした建築ものづくり教育 「実際にものを手にとったり見たりすることができるので分かりやすい」

2020年度

工学部 建築学科

中点検項目	3-1. 単位認定、卒業認定、修了認定
点検項目	① 教育目的を踏まえたディプロマ・ポリシーは、学内外に周知されていますか。
現状説明	ディプロマ・ポリシーは、学生便覧とホームページで開示・周知している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2020年度学生便覧 p. 98 ②建築学科HP (https://www.fukuyama-u.ac.jp/eng/architecture/architecture-
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準（ループリック等の評価指標を含む）等の策定はどのように行われ、学内外に周知していますか。
現状説明	学科内で検討し、学科会議・教授会・教務委員会で審議・策定している。単位認定基準は教務の手引き・シラバスに、進級基準・卒業認定基準・修了認定基準は便覧にそれぞれ記載している。また、ホームページで情報公開している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①教務の手引き2020 p. 8 ②各授業科目のシラバス ③2020年度学生便覧 p. 104

次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等を公表し、厳正に適用されていますか。
現状説明	単位認定基準は教務の手引きとシラバスで、進級基準・卒業認定基準・修了認定基準は学生便覧でそれぞれ周知している。それらの基準は学科会議・教授会で検証し、厳正に適用している。なお、卒業研究の評価基準についても学生に周知し、ループリック評価を導入している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①教務の手引き2020 p. 8 ②各授業科目のシラバス ③2020年度学生便覧 p. 104
次年度の課題と改善の方策	

2020年度 工学部 建築学科

中点検項目	3-2. 教育課程及び教授方法
点検項目	① カリキュラム・ポリシーを策定し、学内外に周知していますか。
現状説明	カリキュラム・ポリシーは、学科学部で審議し策定し、学生便覧・ホームページ等で周知している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2020年度学生便覧 p. 99 ②建築学科HP (https://www.fukuyama-u.ac.jp/eng/architecture/architecture-
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの間に一貫性がありますか。
現状説明	カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーは一連の検討の中で策定しており、一貫性を保っている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①シラバスチェックシート
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程を体系的に編成していますか。
現状説明	2018年度からの新カリキュラムでは、カリキュラム・ポリシーに基づくカリキュラム・ツリーに忠実な授業編成になっている。カリキュラム・ツリーの設計においては、学系・学修段階・相互の関連性が考慮されている。2020年度は新カリキュラムの3年目になる。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2020年度学生便覧 p. 103
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 教養教育は専門教育とともに十分に実施されていますか。
現状説明	工学部に必要な教養教育を、教養教育科目として学部共通で実施している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2020年度学生便覧 pp. 88-89
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 教授方法を工夫・開発(ICTの活用を含む)し、効果的に実施していますか。

現状説明	授業方法については個々の教員が工夫・検討し、その結果は授業評価アンケートで検証している。とくに、設計の演習科目や、学修到達度にばらつきがある授業科目については、学科会議等で授業方法・内容を意見交換している。I C Tについては、セレッソ・C A D室の使用を行っている科目もある。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①授業評価アンケート報告書 ②各授業科目のセレッソのコース
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑥ディプロマ・ポリシーと卒業判定の整合性を考えていますか。
現状説明	ディプロマ・ポリシーに基づいて授業を実施し、単位認定している。また、卒業に必要な科目とその単位はディプロマ・ポリシーを満足するためのものになっており、その妥当性は学部教授会・教務委員会で審議している。さらに、ディプロマ・ポリシーに基づいた卒業研究の評価ループリックを学科内で数年来検討している。総じて、現状の教育でディプロマ・ポリシーと卒業判定の整合性は取れている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①工学部教授会資料（教務関係資料） ②建築学科卒業研究評価基準
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

工学部 建築学科

中点検項目	3-3. 学修成果の点検・評価
点検項目	①全学及び各学科等のアセスメント・ポリシーの活用も含め、三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用をどのように検証していますか。
現状説明	学修成果については授業評価アンケート、G P A分布により把握し、学科内で情報共有している。アセスメントが大学教育センターにより実施されており、その結果を学科で共有しているが、評価の改善までには至っていない。卒業研究については、評価方法・点数化方法について、数年にわたって検討・運用している。
年度目標	アセスメント結果の改善につながるかは不明であるが、科目の内容に対してどの中項目が該当するかの判断基準を整備する。
年度報告	科目内容に対する中項目の判断基準を整備できなかった。
達成度	B
改善課題	
根拠資料	①授業評価アンケート報告書 ②GPA資料（教務委員会配布資料） ③建築学科卒業研究評価基準
次年度の課題と改善の方策	アセスメント評価における中項目について、見直しが必要かどうかを検討し、必要な場合は見直す。
点検項目	②教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバックは、どのように実施されていますか。学修成果の点検・評価結果を教育内容・方法及び学修指導等の改善につなげていますか。
現状説明	学修成果の点検・評価は授業評価アンケートで実施している。結果のフィードバックは、アンケート結果の周知後、及び次年度の授業で実施している。 アセスメント・ポリシーに基づき、教育の在り方の適切性を評価している。学生の学修成果については、レーダーチャートによる形成的・総括的評価によって可視化し、学科の教育プログラムについては、学科の学位授与方針に掲げる資質の修得度アセスメント表を用いて評価している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①授業評価アンケート報告書 ②学習成果のアセスメントの結果一覧
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

工学部 建築学科

基準4. 教員・職員

領域:

教学マネジメント、教員・職員配置、研修、研究支援

2020年度

工学部 建築学科

中長期計画	建築学科におけるカリキュラム構成の必要条件として、一級建築士受験資格に適合することである。その受験科目の分野は、設計製図、建築計画、建築設備・環境、建築構造等多岐に渡り、国家資格としてバランスのとれた能力養成が求められている。「建築の分野において地域に貢献する人材の育成」という学科の役割を果たすためには、教員構成もこれらに対応できるバランスのとれた専門分野構成とする必要がある。学年定員70を前提とすると、教員数11名で、その内訳は、計画・設計・デジタルデザイン系教員6名、構造系教員2名、材料・構法系教員1名、設備・環境系教員2名である。現在の建築の教員体制(非常勤を除く)は、計画・設計・デジタルデザイン系教員(専任6名)、構造材料・構法系教員(専任3名)、設備・環境系教員(専任1名)、建築基礎・地盤関係教員(専任1名)、全体としては11名となり学生定員に対する教員数は満足している。理想とする教員構成とするには、設備・環境系教員が1名不足している。2020年度の専任教員11名の年齢構成は、60歳代以上5名、50歳代4名、40歳代2名であり(平均年齢57.8歳)、2023年度末までに3名の専任教員が再雇用満了となる。現在の定員充足状況は、定員280名に対して301名(1年76名、2年80名、3年73名、4年72名)で7%以上の学生数がいる。福山大学工学部全体の教員1人あたり学生比率(ST比)は17人であるが、建築学科は27.4人と非常に高い。建築学科は全学年で充足率を満足しているので、これを維持するためにもST比25名台に改善したい。
	現状を踏まえ、1)再雇用満了に伴う新任教員採用ではできるだけ若手の教員を採用し平均年齢低下を図る、さらに、2)2022年以降の採用人事を考慮した教員配置の検討を行う。 建築教育において実務的な要素を必要とする分野・科目については教育の質を確保す

2020年度

工学部 建築学科

中点検項目	4-1. 教学マネジメントの機能性
点検項目	① 大学の意思決定と教学マネジメントにおける学長の適切なリーダーシップが確立され、それが発揮されていますか。当該部署の長は当該部署の教学マネジメントにおいて適切にリーダーシップを発揮していますか。
現状説明	学長のリーダーシップの下、評議会における決定事項の伝達や教学マネジメントの運営が確立・発揮している。学科においては、学科長のリーダーシップの下、教室会議にて意思決定を諮り、適切に運営している。
年度目標	現状を維持
年度報告	学科会議の招集・進行、自己点検報告・計画の方針決定、など学科全体の運営について、学科長がリーダーシップを発揮している。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①学科会議議事次第及び議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 当該部署では、教職員間で権限・役割を適切に分散し、かつそれぞれの責任を明確化した教学マネジメントを実施していますか。
現状説明	学科全体は学科長が統括し、教務、学生、就職等の各係の委員及び、学年単位のクラス担任制により役割を適切に分散し、それぞれの責任を明確化して実施している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 職員の配置と役割の明確化などにより、教学マネジメントの機能性を高めていますか。
現状説明	工学部に配置された事務職員は、明確な役割を持っている。学科業務の運営は、事務との協力・連携により教学マネジメントが適正に遂行できている。実施に際して生じた課題や学長・副学長からのコメントは、学科内で共有化している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①学科会議議事録

次年度の課題と改善の方策 2020年度	
	工学部 建築学科
中点検項目	4-2. 教員の配置・職能開発等
点検項目	① 当該部署の教育目的及び教育課程に即した資質を有する教員を配置していますか。また、当該部署の適切な運営及び継続性を担保する構成(性別、年齢、職階等)となっていますか。
現状説明	<ul style="list-style-type: none"> ・計画・設計・デジタルデザイン系教員6名、構造材料・構法系教員3名、設備・環境系教員1名、建築基礎・地盤関係教員1名の計11名である。建築のカリキュラムを実施する最低限の構成となっている。 ・全学年で定員充足率を上回り教員1人あたりの学生比率(ST比)は27.4人であり非常に高い。 ・教員11名の年齢構成は、60歳代5名、50歳代4名、40歳代2名であり、高齢化が進んでいる。 ・女性教員は11名中2名であり、2割程度である。 ・職階については、教授7名、准教授3名、助教1名であり、中長期を考慮すると准教授・講師・助手が少ない。
年度目標	2021年度に教員1名を新規採用する計画である。採用理由は、対外的に建築学科のST比率を25名台にすること(面倒見の良い大学という福山大学のイメージ維持)、建築学科全体の教育研究活動の効率を改善すること、教員の平均年齢を下げるここと、である。それに伴い教員公募を実施し、採用者を決定する。
年度報告	再雇用満了に伴い建築計画・建築設計系の40歳代新規教員(講師)採用を実現できた。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①工学部人事教授会議事録 ②評議会資料
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 大学設置基準、教職課程等の資格養成機関に求められる教員数を確保していますか。
現状説明	教員数11名、教授6名であり、設置基準を満足している。ただし、計画設計系教員1名が2020年度で再雇用満了となる。
年度目標	新カリキュラムの教育体制を維持するために2021年度に計画設計系教員1名を新規採用する計画である。それに伴い2020年度は教員公募を実施し、採用者を決定する。
年度報告	再雇用満了に伴い建築計画・建築設計系の40歳代新規教員(講師)採用を実現できた。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①工学部人事教授会議事録 ②評議会資料
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ FD(Faculty Development; 教育内容・方法等の改善)をはじめとする教員の資質向上に向けた取組みを行っていますか。
現状説明	大学主催、学部主催及び研究科主催のFDに積極的に参加している。また、学科内の問題点解決のために、「成績下位の学生に対する対策」や「卒業設計における課題について」をテーマとしたFDを学科内で実施した。
年度目標	現状を維持
年度報告	大学主催のFDに参加した。また、学科内で学科の問題点解決のためのFD(サブテーマ: 留年させない取り組み)を実施した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①大学教育センター提出資料(【建築学科】2020年度大学院研究科及び学部・学科FD・SD研修実施調査表)
次年度の課題と改善の方策	
2020年度	工学部 建築学科
中点検項目	4-3. 職員の研修
点検項目	① SD(Staff Development; 教職員の個々の職能開発)をはじめとする大学運営に関わる教職員の資質・能力向上と教職協働への取り組みを実施していますか。
現状説明	大学主催、学部主催及び研究科主催のSDに積極的に参加している。
年度目標	現状を維持
年度報告	大学主催のSD研修に講師を輩出できた。学科教員は積極的に参加した。
達成度	S

改善課題	
根拠資料	①2020年度科研費獲得等に関する研修会（オンデマンド方式） ②全学SD研修：
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 大学運営の効率改善のためにICTの活用を推進していますか。
現状説明	メールによる情報共有やゼルゴバをはじめとするICTを活用している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状説明に掲げた内容だけでなく、新型コロナウイルス化における会議運営のためにZoom等の遠隔ツールを活用した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①学科会議議事次第及び議事録 ②Office365上のSharePointドキュメント
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

工学部 建築学科

中点検項目	4-4. 研究支援
点検項目	① 研究に専念する時間の確保、研究室の施設設備の整備等の研究環境を適切に管理していますか。
現状説明	各種委員は各教員に作業分担し、授業科目も年間7～8科目前後を担当している。また、3年次生、4年次生のゼミ配属人数も均等になるよう配分し、研究に専念する時間を公平に確保している。各研究室の管理は各教員が適切に管理している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 研究倫理の確立(規則の整備や検査等)と厳正な運用が行われていますか。
現状説明	コンプライアンスに関する研究を全ての教員が受け、研究倫理について周知しそれ基準に厳正な運営を行っている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①工学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 研究活動への資源の配分や運用は適正に行われていますか。
現状説明	各教員による外部獲得資金等は事務部門と連携して適切に運用している。個人研究費等については、前年度の実績に応じて配分ランクが決められ適性に行っている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①専任教員における年度実績及び年度実施目標
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 公的研究費の運営・管理(ガイドライン等)が整備され、周知されていますか。
現状説明	ガイドラインが整備され各教員が周知している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①工学部教授会議事録 ②工学部研究倫理コンプライアンス研修実施報告書
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

工学部 建築学科

基準6. 内部質保証

領域：組織体制、自己点検・評価、PDCAサイクル	
2020年度	工学部 建築学科
中長期計画	学科の教育システム、カリキュラム・ポリシー、カリキュラム・マップ、ディプロマ・ポリシーをもとに質的保証を行っていく。さらに、PDCAサイクルを運用し、改善していく。教員側の対応として授業評価アンケート、実績評価等の自己点検を行う。成果については、HP等を活用して積極的に公開する。内部質保証のシステムについては、学外者の意見も反映しながら、学科会議等で検証を行い、改革改善を進める。また、HPにおいて教育研究活動を公開しながら、定員充足に努める。
2020年度	工学部 建築学科
中点検項目	6-1. 内部質保証の組織体制
点検項目	① 内部質保証のための組織を整備し、責任体制を確立していますか。
現状説明	全学の自己点検評価委員会や学部の方針に従い、学科においては学科長を責任者とする学科会議において、自己点検・評価を行っている。
年度目標	現状を維持
年度報告	全学の方針に従って、学科長を責任者とする学科会議において議論している。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①福山大学自己点検評価規定 ②福山大学工学部自己点検評価委員会細則 ③2020年度学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	
2020年度	工学部 建築学科
中点検項目	6-2. 内部質保証のための自己点検・評価
点検項目	① 内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評価が実施され、その結果を当該部署の教職員が共有していますか。
現状説明	全学や学部に従って、自己点検・評価は毎年実施し、学長に提出している。学科の提出内容については、所属教員全員からなる学科会議において共有し、事前に議論している。また、教育情報については、学科HP、大学案内にて積極的に公開している。
年度目標	現状を維持
年度報告	学科会議において情報共有して、自己点検・評価をまとめた。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2020年度学科会議議事録 ②2019年度福山大学自己点検評価報告書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② IR(Institutional Research)等を活用した十分な調査・データの収集と分析を行っていますか。また、その結果を改善に活かしていますか。
現状説明	入学（受験者数・合格者数・出身校など）や就職（業種・職種など）の動向についてはデータ収集し、分析を行っている。内容については、学科会議で議論し、入学後の教育や、募集方法、カリキュラム再編に活かしているが、まだ十分にIRを活用していない。
年度目標	全学に新設されたIR室の方針に従い、学科でも積極的にデータ収集と分析を行い、改善に活かす。
年度報告	学科ではCerzoを使って積極的に学生情報を収集した。入学者については、入学前の学習状況調査と1年末のGPAとの関係を分析した。データを用いた学科FDを行っており、データを活用した改善を検討している。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2020年度学科会議議事録 ②建築学科FD資料(2021.3.11)
次年度の課題と改善の方策	
2020年度	工学部 建築学科
中点検項目	6-3. 内部質保証の機能性
点検項目	① 内部質保証のための学部、学科、研究科等と大学全体のPDCAサイクルの仕組み（システム）をどのように確立し、その機能性を検証していますか。

現状説明	学科の自己点検・評価は毎年実施し、学長に報告している。また、各教員は全学の自己点検評価規則に基づき、毎年、年度初めに自己点検計画書を作成し、その達成度評価を盛込んだ自己点検報告書を作成するシステムが整備され、手続きは明確である。また、各教員の授業や教育については、授業評価アンケート結果をもとに授業改善に向けた報告書を作成し授業改善に繋げている。それらの報告書は、学科長に提出され、学科長が学科全体の授業結果報告書を自己点検評価委員会に提出している。自己点検・評価委員会からのコメントを踏まえて、学科で議論し次年度の改善に繋げている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状説明に記載の通り実施した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2020年度自己点検報告書 ②2020年度自己点検計画書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 教職員のコンプライアンスを確立するための体制を整備していますか。
現状説明	「福山大学キャンパスハラスメントの防止等に関するガイドライン」、「学術研究における倫理審査について」、「男女共同参画宣言」、「研究費の取扱について」、「個人情報管理基本方針」について教員が周知し、コンプライアンスの意識が図られている。これらについての検証は全学の方針に従い、学科では検証していない。また、各教員は、コンプライアンス教育・研究倫理教育研修など各種FD研修会に参加し、理解度をチェックしている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持し、コンプライアンス意識を高めることを目的に全学的に開催したSD研修会等に、学科教員が積極的に参加した。不正等の発生はなかった。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①コンプライアンス研修理解度テスト、誓約書 ②福山大学キャンパスハラスメントの防止等に関するガイドライン ③学術研究における倫理審査について
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

工学部 建築学科

基準7. 福山大学ブランディング戦略

領域： 「福山大学ブランディング戦略」の点検・評価（本学独自基準）

2020年度

工学部 建築学科

中長期計画	福山大学ブランディング戦略の目標は、里山・里海に根ざした未来のまちのあり方を提示する「瀬戸内モデル」の構築である。建築学科では、研究プロジェクト『瀬戸内里海の次世代養殖システムの開発研究』及び『地域遺産』の理念構築とその保全・継承に関する研究』で参画している。今後は建築工学に絡むテーマを検討し、他学部・学科あるいは外部団体との連携による共同研究を模索していくことも検討していく。
-------	--

2020年度

工学部 建築学科

中点検項目	7-1. 福山大学ブランディング戦略の推進
点検項目	① 福山大学ブランディング戦略 (ver. 2018) の概略について当該部署の学生及び教職員への周知を進めていますか。
現状説明	建築では福山大学ブランディング関連研究が2テーマあるので、建築学科の学生は認知できている。卒業研究テーマとしても取り上げているので、周知は進んでいる。
年度目標	現状を維持
年度報告	福山大学ブランディング関連研究2テーマ（瀬戸内里海の次世代養殖システムの開発研究、「地域遺産」の理念構築とその保全・継承）に関係するテーマを卒業研究をとして実施した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2020年度建築学科卒業論文集
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 福山大学はブランディングを「広告ではなく、社会に貢献する観点から他にはない固有の魅力を引き出して他との区別化を図り、社会から選ばれること」と捉えています。この観点からブランディングにどのように取組んでいますか。
現状説明	・一部の教員が福山大学ブランディングのテーマに取組んでいる。 ・学科としては、ブランディングを意識したPBL教育を実施している。
年度目標	現状を維持

年度報告	1年次生・3年次生では、備後地域の活性化をテーマとしたPBL型授業を実施した。地元企業と共同で「収納住宅」プロジェクトと題するコンペを実施した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①Cerezo「教養ゼミ」及び「ゼミナール演習」 ②学長室ブログ（コンペ報告） https://www.fukuyama-u.ac.jp/blog/41121/
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 福山大学プランディング戦略では「備後地域の産学官民連携を推進し、地域の教育資源を最大限に活用して人間性を高め、地域を愛し、地域で活躍し、地域から国際社会につながる『未来創造人』を育成すること』を方針としています。当該部署は、この方針の実現にどのように取組んでいますか。
現状説明	1年次生の教養ゼミでは「福山」をテーマに、3年次生のゼミナール演習では「備後地域」をテーマとしたPBL教育を実施している。学生が主体的に課題の発見・調査・解決方法を検討し、成果物の作成・プレゼンテーションまで行っている。 一方、地域企業、特に製鉄会社の関連の鉄骨製作などの企業との研究や学生のインターンシップなどの連携を深め、学生が地域で活躍するには、企業と共通基盤となるCADツールなどインフラの整備が必要である。
年度目標	2021年度の構造系・施工管理系の授業に間に合うよう、BIMに対応した構造系・施工管理系の企業と共通基盤となるCADツール導入を計画し予算化する。
年度報告	備後地域を題材としたPBL教育については、学生自身が成果物を評価できる発表会をオンラインで実施した。 2021年度予算にてBIMに対応したソフト導入の承認を得ることができた。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①Cerezo「教養ゼミ」及び「ゼミナール演習」 ②2021年度建築学科予算書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	① 福山大学プランディング戦略では、福山大学が備後地域の知の拠点として地域と共に育ち、地域創生に貢献することを目標としています。この目標の実現に向けて、どのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	卒業設計展を福山・尾道など3箇所で開催している。社会連携センターの研究成果発表会へ参加している。参加者数を確認している。
年度目標	現状を維持
年度報告	新型コロナウイルスの影響で例年5月の卒業設計展や6月の研究成果発表会は実施できなかった。3月開催の広島8大展は現4年次生が予定通り参加した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2020年度広島平和記念卒業設計展参加実施計画
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 福山大学プランディング戦略では、建学の理念に基づき、「地域の中核となる幅広い職業人」を、育成する人材像としています。そのために、どのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	・家具工場や建築現場の見学会を実施し見聞を深めている。見学会の様子は学科HPに掲載している。 ・社会経験を積むためにインターンシップ参加を推奨している。企業による学生評価書は教員に回覧し、面談の参考資料としている。
年度目標	現状を維持
年度報告	新型コロナウイルスの影響で予定していた工場見学や現場見学はできなかった。ただし、予定にはなかったが、吉備津神社の本殿改修工事現場を実施することができた。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学長室ブログ（見学会報告） https://www.fukuyama-u.ac.jp/blog/46890/ ②2020年度インターンシップ参加学生評価表
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑥ 福山大学プランディング戦略が掲げる「備後地域との密な連携のもとに進める教育研究」としてどのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	1年次生の教養ゼミでは「福山」をテーマに、3年次生のゼミナール演習では「備後地域」をテーマとしたPBL教育を行い、それぞれ発表会を実施している。学生・教員が情報を共有するとともに、発表及び内容を評価している。発表会の様子と成果物は学科HPに掲載している。学科会議でPBLのやり方を討議し、改善点があれば次年度に反映させている。

年度目標	現状を維持
年度報告	新型コロナウイルスの影響を考慮し、福山や備後地域を題材としたPBL教育の発表会をオンラインで実施した。自他成果物に対する学生の意見やコメントを収集し学生に公開し、多様な考え方があることを伝えることができた。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①Cerezo「教養ゼミ」及び「ゼミナール演習」
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑦ 福山大学プランディング戦略が掲げる「学問にのみ偏重しない全人教育」としてどのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	・インターンシップに参加した学生の企業評価書を教員に回覧し、担任の学生指導に活かしている。 ・3年次生及び4年次生については各ゼミで社会人マナーを指導している。就活面接練習により人材教育を実施している。 これらの取組み成果は、就職活動における成否に現れる。
年度目標	現状を維持
年度報告	BINGOオーブンインターンシップに4名（1年0名、2年0名、3年4名）参加した。また、企業への積極的なインターンシップ参加を勧めた。 建築学科業界説明会を開催した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2020年度インターンシップ参加学生評価表
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑧ 福山プランディング戦略は、これからも進化させて、さらに発展させることが必要です。プランディング戦略のプラッシュアップにどのように取組んでいますか。
現状説明	備後地域の人口減少抑制や松永地区・福山駅周辺の活性化に関して、PLB教育（課題抽出・解決方法の検討など）を通じて、学生に現状認識の場を与えていた。また、地元企業との協働事業などを推進し、地域を考える取り組みを実施している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①Cerezo「教養ゼミ」及び「ゼミナール演習」
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

工学部 建築学科

中点検項目	7-2. 福山大学プランディング推進のための研究プロジェクト
点検項目	① 当該部署では全学的に展開しているプロジェクト研究の「瀬戸内の里山・里海学」にどのように取組んでいますか。
現状説明	2018年度から3年間、研究プロジェクト『瀬戸内里海の次世代養殖システムの開発研究』及び『「地域遺産」の理念構築とその保全・継承に関する研究』で参画する。
年度目標	現状を維持
年度報告	研究プロジェクトの一部を卒業研究テーマとして取り上げた。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2020年度日本建築学会大会学術講演梗概集 ②2020年度福山大学研究成果発表集
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 福山大学プランディング研究に必要な内部資金及び外部資金をどのように獲得していますか。
現状説明	科研費や応募可能な外部助成金に応募している。
年度目標	現状を維持
年度報告	内部資金：優先課題1・2とともに福山大学研究プロジェクト（安全安心防災教育研究センター予算）に応募・獲得した。 外部資金：優先課題2については科研費を獲得した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①安全安心防災教育研究センター予算書 優先課題研究経費 ②科研費採択リスト

次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 福山大学プランディング研究の成果をどのように社会に発表していますか。
現状説明	建築学科で参画している2テーマは、その年度に得られた成果を論文等で発表している。
年度目標	現状を維持
年度報告	成果を論文にまとめ、日本建築学会学術講演梗概集や福山大学研究生会報告集に発表し
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2020年度日本建築学会大会学術講演梗概集 ②2020年度福山大学研究成果発表集
次年度の課題と改善の方策	